補物名類聚

第一

食物和歌本草増補巻之六

○あ　草之部

胡葱（アサツキ）　本綱　辛温ニ無毒　生則辛平熟則甘温

まはりは根茎はみなゆるに胡葱といふは細かうと好む胡葱ハ
韮蒜（ニラニンニク）にたりかくれはうらうくらと八月に種て五月にかるゝ
胡沖の山には三月にうゝるにあまりしものなり
凡俗すり

辛温
あさつきハ中を温め気を下し穀を消して食をすゝむる

同
あさつきハ脾胃の冷気を利し邪を殺して腫毒を治す

同
あさつきを久しく食へハ神をやふる物忘れして目にも損する

同
あさつきを多く食へハ血脈をふさぎて痼疾おこり精神よ

あさつきを四月に食ふな息つかひもえて気痛せむるとか

あるときハ腫ものを治するに用ふ
あるときハ合ハ豚者ハ神と換して毒をよく
あるときハ公豚の乳をとりて毒を解あるハ月四へりてもと
○藍 本綱 耳羊 鄭毒
あるときハ黒豆を煎湯よりて
あるときハ湯に実ありて毒あるハ藍ハ風を治
あるときハ味ありて胃の気を接続して合あるなり
あるときハ腫ものを除て腫乳をとりて腫痛破ふよ
あるときハ疫病より月の四の極をとりて毒を開き
あるときハ疫毒より合毒を除くよりて四の乃ち毒

あるときハ腫ものを除て毒をはめまひを治するあるなり
あるときハ七月の後ハ毒でのめ血ハ乃の万病を治す
若使ハ白ものを除くよりて毒を治すのよ
○大薊 小薊 本綱 耳 温毒 使大薊小薊
薊と生して四月より毒を利する二色ありて
うるうて大小のちりとして葉ハ毒を除
てハかりりめを作るとこ葉ハ毒を
生ちるものハ毒をこ同時にして合
わかれるものハ毒をこハ作るふるものハ毒ハ
しの薊葉ハ治しとりて葉ハ作ふ
あるときハ大小あるものの葉ハ古血をやうり生じて新血
薊葉をふにかりて血をして血乃ちを血血肝血を治
あるときハ花や方乃ちを血血箱毒をとりて腫ものを治す

あせもとて労瘡小兒乳瘡を煮つめて合すか
又ときどきに塗けるもよし
石蜜猪本綱の大小乃薊の絞汁合てよめか
なるべし
あせもに胡椒を粉にとひ合せ同刻つけ
○秋瓜 秋の時分はまてのこれる瓜
夏の土用ころ乃瓜ハ人ものあり
七月よりこの土用あるうちハ合せてもよし
秋瓜を煎ものして脾胃虚
秋瓜と豆腐とを合すもよし
○酒毒 本綱 鹹寒毒

此くわらくやうくわうてあるうりの汁を
布にもしまきとりとりて
つるあるうり作り日干乃あ
綱中は空とやうるはあ
産をうるもあり
あせもに掃木の痛治
あせもに煎ものの汁わるれ
あせもの粉末
あせもに氣のひとり
あせもに脚氣
あせもに脾胃に
○紫菜 本綱 耳菜毒 ほよ海中の石より

しげりてひさしくふるふるとしいりを代あさくさのうと
つるの出るうれまものうと同じ性なるて味をもちてせか
さるふるもの

辛温
わまのりは熱気のあらうるうや肺気をうるつくく
同
わまのりと合はしつくるし腹ハ結とうらうおのめよく
わまのりふるをもくるを也合はしハ腹ふくれるるをわかく
わまのりは結気をらくしたるの毒病人をうひくくてくるる

○乾苔 本綱 鹹寒毒 辛温の陳醤と醤あ
とかくのうとあるれ乾苔とあとのうしあれ乾苔
と陳醤ハ川のうけとよりうとのまのうは乾苔の法
ようけるり陳醤の陳あるあるるるるるるるる法よ
乾苔
まるるるハ黒とるるるとるとるとるる霍乱の味よ美てを食

同
まるのるハ病病小苦ハ腹のうくれるとハるよいるのん
まるのるハ食をるるとる胃気をうるる也津液を益
まるのるハ消渇をうるるる也

○青蕎麦 そばの味ハ
はそばの麦ハ
わるるるる中風痰をよるくるあるるとひるめる也熱毒

穀くく部

○赤小豆 本綱 平酸 毒無 小豆と赤もくをど
のくらるれハるくくくるるとるくるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

宿食湿気横逆下利腹痛
右脾胃虚弱ニ付食物ニ
赤小豆八一名赤豆の世俗病人
日々十日ノ間ニ元気
脾胃を養ひ元気
ちつきくはんやくあつきさしそとりふつふ
平説
あつきさしそ熱毒を治し又ハ気をとり
あつきさしそ熱渇の渇を止
あつきさしそ小便を利し腹中を
あつきさしそ小児丈夫にして
あつきさしそ病人体ニ気
あつきさしそ海産つよき食
あつきさしそ癰疽の業をとり
あつきさしそ久敷脈をとり
あつきさしそハ腸病下痢ニ
あつきさしそ婦人の肥
あつきさしそハ胸気
あつきさしそハ気をとり
あつきさしそ熱毒瀉痢
あつきさしそ熱毒瀉痢
○赤小豆
あつきさし事平陰痢腫脹

あつきあり心穢とを男くとしくさ食をもちあるそ世間を
あつきめ下血て腹の膨満のあるあれつひよ風ふ

○赤小豆粥　本綱　辛酸　辛酸　平　無毒

赤小豆ゑ小便を利し脚気を治し毒を解し
赤豆をめ熱く冷て極て乳を通ずるを治す

○腐婢　本綱　辛酸　平　無毒

あつきの花つきを治す痛を除く腫を消す毒を解す
あつきを花用も腹ふくれて乳をとりて児の母毒と活を
あつきを式豆合をもちて腫を消す

○赤米

赤米は結腸を開し腸胃を利し気を和す

○あこや

あこや平　乳汁少しとり血の乏を補ひて身をうるほす
あこやを生にして食すれば強くなる

○飴饴　本綱　甘大温無毒

飴は脾を補ひ乳汁を通ず
飴は肺を潤し脾胃を治す
飴は穀中滑毒の物を貫に血のつまり痰毒を

飴ハ中を和し鬱痰や腎の病によろしく食すべし
飴そのほかやうしや痰によくむせたるにもよろしく食すべし
飴ハ大棗乾姜燥にて作れるを易といふなり
飴ハ蕎麦を米に合せ作れる中の生よりてたるのみ
飴ハ男子の陰中よりいでたる小腸をかへて食すべし
式飴といふ家ハ地黄煎の事なるべし地黄
煎田虫によりていふやうなる地黄をも
あめといふなれば清なるべし茅膠飴といふを
もちあめと和訓ありて琥珀
に似たるよし

○甘酒　酒家にまうくのさけにかをよろしくめりかき
そのまゝもあまざけとこそいへ
とまりて一夜ひたせるにもよくまかりいでぬ
つくりおくるあまさけハ一夜にてよろしき
き八くそじめりのあま酒ハ一夜によろしく
まぜぶるにたべんとするハ性ハよろしくあらざる
まざけハ一夜さけ一宿酒日醴
甘酒八(?)一宿日醴
甘酒ハ微温にて甘く毒なし又脾を補ひ大腸を利す
甘酒を多く食すれバ脾胃を破られる
甘酒ハ餅のごとくあまきをよしとす
甘酒ハ脾胃をやぶるゆゑにすぎ服すべからず
○諸粱　本綱　無毒
粱ハ黄粱米　青粱米　白粱米
鹹微寒を糯米にくらぶれバ大同小異にて
のこりハ食するに用ひてかはりあるべし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○蕪荑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菟絲子ハ腎を補ひ骨ずいをまし精汁をましてまなこをあきらかにす

果之部

○青梅（アヲムメ） 梅の実いまだ熟しきらざるを又烏梅の果とす のこらずゆるうち八分ばかりを又むめぼしの子とす

青梅ハ平にして毒なし胸のつかへをさり痰をけし瘧の毒を解すよ

青梅ハ咳嗽や痰のつかへをさり心をすゞしくし血をとゝのふ

青梅ハ気をくだし渇をやめ下痢をとめ胸をあたゝめ蛔をころす

青梅と烏梅ハ骨鯁をやぶり腸胃をあたゝめ虫をころす

○野梨（アリノミ） 梨子の類ハ大なるをよしとす小なるもの和名ハすなし あをなし又あかなしとも云 梨ハつめたき性にして果子のうちにても

のどのかはきをとゞめ熱をさます渇をとゞむ

あをうめハ平にしてどくなし金瘡やけどのきずをいやす

あをうめハ目のかすみやむ上気をさげ耳なるを治す

あをうめハ痰をきり小便を通し心をすゞしくす

あをうめと三仏子ハ胸のつかへをさり小虫をころす

鳥之部

○鵁鶄（アヲサギ） 【本綱】 耳ハ鹹平にして毒あり きよしと本綱に見えたり 和名ハあをさぎ 本綱ハ樹上に巣をくひものをさがすにはよし

あをさぎハあをさぎのやうに毒あるものなり

あをさぎとあをさぎの毒をさる

あをさぎハ夜の泄瀉や下痢や脾胃の虚冷を治す

あしを煩ふ人の病やむ日に丸じ合せよく面を熱うしてとる

○鶩 本綱 耳冷微毒 鶩の肪は大きに暖の字

とりの中は色の黄家鴨しかはの中家鴨しかはの中は鶩のまこさてあのうよ鴨

うるこを白して鳥骨のうるこを中焦

うるこはぐくもこ又目のうるこ

ゆるはうこうるあのうるうしゆこ

鶩こ性寒こ補ひて気を益と陰腎脚とおとろあのこ

鶩こ性寒こ痛ひて毒やあるこを利し無病こ

鶩こ性寒こ用ひて熱風こ用ひて

あしひとへ寒ぶる人こ用ひるこ

あしひとこて四ことられ合せるふおく用て腎脚

○家鴨卯 本綱 耳咸微寒こ毒

あしひこ動こ食せよ

あしひこ動こ陰こ

あしひこ出横の毒胸痛こ

あしひこ動こ食せ

あしひこ動こ蓄積こ

あしひこ湯火のやけどこ

○鵝頻 世傳こ

あここびは耳こ注こ

あここひは金瘡産後こ

○まこ鵝

[illegible]

○丹雄鶏 本綱 辛 微温 無毒 日中ノ雄鶏ヲ用ヒ[illegible]

[illegible]

丹雄鶏中ニ温め補て白血長血ヲ生ス[illegible]

丹雄鶏ノ[illegible]

丹雄鶏[illegible]

丹雄鶏腎水ヲ益[illegible]

丹雄鶏脾胃ノ[illegible]

丹雄鶏ニ居[illegible]

○黒雄鶏 本綱 辛 酸 温 平 無毒 今までの本草ニ[illegible]

[illegible]

○鯉 本綱 味温無毒 江湖の中に生ずる所の魚毒なしと雖ども食すべからざるものあり

[illegible]

○鰻

鰻は温毒にして又よく[illegible]

鰻は[illegible]

○赤目魚 又杜めりの和めりの[illegible]

鮒は魚胃とあり[illegible]

鮒の魚肝胃をやいて[illegible]

鮒は底除脾胃に[illegible]

[illegible]

○鰻

鰻は温毒にして又よく[illegible]

鰻は[illegible]

○赤目魚 又杜めりの和めりの[illegible]

あるこの平に毒を【脾】胃を注合して腎と補ふ
あるめこの法病に用ひる乳汁を【食】注合して泄瀉せしを薬
あるめこの食腸の寒気に毒也乃不合して胃の乳補ふ

○蘇

あらの平法病に用ひる毒を注合ひ出すに小麦の毒
あらの魚毒にあたりてくるくる英乃不合せて百病ふ
あらのこの脾胃の寒気に毒を腸補ひ合ひて
あらの蘇の毒にあたりて合ひ注合ひ
あらの蘇の毒にあたりて注合ひ

○鯢 【本綱】 耳泡 注合毒 とろふゆ江湖の中に出て
鯢のいろくるハ鯢に似たり肉厚し味甘平

あるめの魚胃とあるめ中に毒を法の病毒を也
あるめの魚乳力とあるへ薬に吉用まひるのあるへ
あるめ中風肺乳の第也毒門あるに用る
あるめ腸嗜痺や喉に毒

○鯢蛤 【本綱】 耳平 注合毒 ふハもくの腹のや稀
ひさまはいろくそ味わまきあるよ毒を法文に毒を
鯢ハ注前と合めの中のうり人毒にすまひるかう
鯢ハ中とあるめ合注陽に毒して毒をまん
鯢ハ公腹の冷気せるるし注風とまん腸とまの

[illegible]

○蝕穀 本綱 鹹平毒

[illegible]

○石決明 本綱 穀蝕 鹹平毒

[illegible]

石決明 [illegible] 肝 [illegible] 精氣 [illegible]

[illegible]

○六英 合和 本綱 甘寒平毒 [illegible]

[illegible]

茶のみしてゐるところへやくらうくんとつけられ
ても[illegible]備前がしこゞてうしろ[illegible]人をもつて試みてくだ
脾胃やぶり又ハ茯苓[illegible]もの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]世の中[illegible]
[illegible]
世のためにたゞ[illegible]よくよく[illegible]
ゆくし　土茯苓の事

本綱
土茯苓中を調へり脹をさめて脾胃をすくやかにす
日 土茯苓筋骨つよめ風湿をさり[illegible]
日 土茯苓これを食て穀をたて飢ふまふく腰をまもり
日 土茯苓骨いたみ悪瘡よ[illegible]関節を[illegible]
日 土茯苓楊梅瘡よ[illegible]軽粉の毒を[illegible]瘰癧[illegible]

○ 穀之部

酒 本綱 苦甘辛大熱有毒

酒ハ百薬の長[illegible]してよく人の血脉[illegible]天年と合[illegible]
のぶる[illegible]紅[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]儒佛の[illegible]
[illegible]
天門冬酒菖蒲酒[illegible]毒つよく[illegible]

日 酒ハ百薬の精をめぐらして百邪悪毒の気をのぞき
日 酒ハよく皮膚を潤し血脉を通し温気をとり[illegible]
日 酒ハ[illegible]
日 酒ハ脾胃を[illegible]風寒を[illegible]腸胃[illegible]
酒ハ[illegible]

酒を分て八くのめば前の病と腹
酒を多くのめば腹の病と
酒にて宿の病と茶にて氣とをもつて
酒にて雑煮を喜ぶ事
酒にて粥つゝるとて好小腸
酒をもつて心痛をつまのりさしたる
酒に胸をとゝのへ
酒にて人を怨をつゝまで
○紅豆 本綱 甘鹹平無毒
とゝり紅豆と鹿蹄と
酒にて胃を補ふ

本綱
紅豆を中とゝり乳を益て腎を補ふ
紅豆を精氣とす渴やめ胃をすこやかにす
紅豆を腎氣とす腰の痛ひくゆをとゝのへ
紅豆を百病の業とす勇をかゝしてそうひの
紅豆を丹毒や黄疸のもとゝ
紅豆をいゝて金を十二種脈とゝのへ氣血を補ふ
紅豆をもつて毒を解す

[illegible]

○座禪豆 本草

[illegible]

○砂糖 本綱

[illegible]

[illegible]

○石蜜 本綱

[illegible]

砂糖 [illegible]

水銀粉を脳とたとけ粥とともに痛を清とる酒毒有り

水銀粉を〇合すふ脾胃を傷て脾胃ひたるとき

水銀粉を〇くらへば穢を屋を煮ても接する毒を生ず

水銀粉薬にて〇合すれば毒有る也穢疾あるべし解の疾より毒

水銀粉を〇胃に乳を加へ酒とともに病人よいし

○蜀椒 本綱 辛温の毒 辛椒蔓椒地椒

〇乾ものにして結毒かりの物にても辛りてなまり二

ちりとこれとくんしやうのあるさしぐんしやうの

もまりまりこんしやうはつけぐんしやうは月毒の

はしんしやうはりてをにぐくあるらぐらぐらに毋はの家

りの〇ふかはあるこのまの刺をく紫ちひんしやうの其

紫ちいるくちりとこの大小はくくいうめくあんどとめて

しさてあるこみこの実性をくくあるこのつぎまこさんしやうのかりふ

ちぐ用ちはしんしやうのまのあるくくてあること

辛椒

山椒は中を温める乳を下す新逆を去

山椒は多く腎薬を補益合補

山椒は〇を熱すものの毒

山椒は合すれば〇人を傷ひ

山椒は血脈を〇血をちらす

山椒は〇合すと法して津を止ふ

やうと煮をとりて目をもらくまろ

温め前まも用ふる毒毒動ちろ

山椒は麁小を用ひ備前の汗のあるを用ひそれ
山椒は乳汁にて煮汁にて粥にすべし
山椒はひそかに腹のつむを除く良
山椒はひそかにめりを去る
ひんやりかく熱也上焦の
ひんやりとまる去る山椒の性とんぬる

歌うたふ部

○猿 本綱 酸辛毒 注小兒名を沐猴と
せふぐてくちうゆしこと明弦しこと世俗よ雅の
にこれはこれいうこと世俗まるの彩猴は猿ぐもこれ猥
李綱の注よりもとかふるのひまやの中にたれとこれ
うのやまひと猴と作り呼の猴は類とこれ

食とかくこと猴しく猴胸をく紙食とたきを風よ色なく
尾をでかくもこれ人のこくしと山藥と世俗よ雅の
類のこくもこれこくこくしとふりのこくこれの歌も猥
果綱すべしひくなりすこくこれこれこれ
こと茶こと色おくこと尾のもこ
物と食て李時よ茶は山藥は猴は新
さこの風りこの風りよ石こくこれこれこれ
さここ中風茶の色ちこ色ここ色こ
さここは薬の茶こんこれこれ
さこの風りこれこれこれこれ
さげ大百病を治こと猴よ食ふこ人かこ猴
右は一首とまこの李茶よさこの沐よ
部一とふまこれて猴こやらんこけたこ

ありくよりゆゆるこれハさうけ笑の
百病よ素ありくつるゆうるへ元素を
のおよあるをくこうけあやまれるや

○鷺 本綱 鹹平無毒 味の辛よ極て
ありて雪のごとくあるてくびりくかれ
よもくさをありとつり日をくてもなるよハいろくこと
なるさくハ雷と腹補ひ脚と益てあり食をこと乳て補
なるのうん血とう血腹よ益くかれひ移りけり
ひ光とは移りてあふぐもうとをとりやまるり

○鯊 本綱 平無毒 ほよ美名沙魚てこうハ
皆よるこはぶ沙のごくもの
ゆてさりよはるるくあるもたくハくるもの
えくう日をうてこもはいくるもの
みせり手絡ほくもはいくるもの
こと文廉のごくもうと廉
とうひ白ひとくのごくるうと廉沙
虎奥の化するあくもの刀剣とくうへくと作りく
鯊肉ハをうとあるくうへ身益そのうる
鯊肉ハ鯊ごとくて也ハ勝とるひ功鄉と亞
鯊肉ハこうて食て益てこうハ勝とを利ひ血とる正
鯊の血害孫のうへよ肉肉下勝ひ使通しこうれ

鮟の奥ふく食せハ腸胃滑つて気を動し

殺人府和田泥ゆまざるを用ひて

○皮 本綱 甘鹹平無毒

鮟の皮ハ性甘ともとく人の毒を治す

鮟の皮燒灰ハ

鮟の皮ハやき灰ハ

○鰄 本綱 甘平無毒

こゝ[illegible]蔵ともいふ

とゝ[illegible]ハ

さゝ[illegible]

さゝ[illegible]

○青魚 本綱 甘平無毒

江湖の内よりいづ[illegible]

日本にてハ海より川[illegible]

さゝの陽脚気よ[illegible]

さゝで[illegible]

さゝの新石[illegible]

さゝ[illegible]

さゝ[illegible]

さゝ[illegible]

さゝ小社生[illegible]

さゝ好ハ[illegible]

さこのみ小豆氣よ煮めしも若しひとそこんはこと用ふる

○鯖腸 本綱 若寒之毒 脊腸を七中の不ふり治を

鯖のこも若く自ふれてこし治し 熱瘧ふあ毒ふよい熱

鯖のこも喉痺痛腫ると ちうと毒のものもみちとも

○鰆 耳 たちうちとさうくらいひちうとたとこで

とつふ同ねこし 悪寒熱 とくふ

さいく耳く毒ふる参りて出 積疝や陰ぐよどくふり

さいくふ兄のかくひ痛の出ふ ふくいひあり百病ろどく

○鰍 本綱 耳手毒 泥鰍ハ泥の中ふ

ふちさ鰍わちまぐのいちうと雄毒ハあちうに雌毒と

くろめしせちうにてうこちうてくとちうと治よとあぢ

ふひあちとしちうあよふの豚ちとちうと

さけの肉 桜の毒毒ハ出と氣血ふ入てとちうと

さけの肉 寒ふちうひ脾胃と益ハ腸胃酒毒と治と

さけしちと氣力の業骨精のつきちうにうすこちうく

さけの毒多く食すふ肉桃し毒と目ふと毒

さけの毒毒やちうく陰の毒 疝悪陰よ治ふいひ毒

○鰤

さこハ冷けて毒ふ毒参りて出ふちうて 痛ちう毒

さこハちう脾胃と補ふ毒毒て食せハ 積病業ふちう

○蛸 耳 出 こと 新

さゝゐ酒さうして毒あり是ハ法ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
さゝゐ胃の氣をひらき食すめ腰脚をさゝ上ざるに在
さゝゐ[illegible]ハ[illegible]ハ食ハ[illegible]ハ[illegible]

き　草之部

○木耳　本綱　木耳　平ゝ小毒　注ハ[illegible]ハ[illegible]
耳ハ朽木のうへに生ずるなり[illegible]
[illegible]
南人ハ蒙[illegible]
[illegible]

木耳ハ氣を[illegible]
木耳ハ血を[illegible]

木耳ハ[illegible]
木耳ハ[illegible]

○菜耳　本綱　菜耳　平ゝ毒　注ハ[illegible]
[illegible]

菜耳の[illegible]
菜耳[illegible]
菜耳の[illegible]
菜耳[illegible]
菜耳の[illegible]
菜耳[illegible]
菜耳の[illegible]

茶耳は大金いろの小豆腐利し婦人の小腹にて[illegible]と治す

○槐耳　本綱　苦辛平無毒　槐の木の[illegible]蘭[illegible]粥を

若く槐の木にうけまとかりかとさいはせすりと

槐耳は大腸下血又は痛や婦人の崩帯は[illegible]痛治す

槐耳　脫肛を治し男子はきめ無とやうつかまた地

○榆耳

榆耳とも榆とも食せいかとしたるものとそうし

○柳耳

柳耳乳とはきもひて男とおさむ痛とそうも結治よろ

○柘耳

柘耳　脚癰[illegible]毒を治す

山の木と本綱に本耳とつも松耳柘耳

なるべしまつ[illegible]

○胡瓜　本綱　本寒[illegible]小毒　但小矢[illegible]

西域よりつたひて種とす胡瓜とつたり

二月に種をまき[illegible]ぶ[illegible]瓜のごとくにして完あり実月ふ

若[illegible]ものを瓜の中にて[illegible]一の毒[illegible]

胡瓜とは[illegible]食すれ[illegible]

胡瓜とは[illegible]食すること[illegible]

胡瓜とは傷寒[illegible]の若病人とやうやまの[illegible]食する

胡瓜を湯とあてて[illegible]と利とかりのあり[illegible]

胡瓜も糖や蜜やとろみを世間なども毒ものとも
胡瓜とハ瓜と同食ハ胃元の精けをみな[illegible]
胡瓜とハ瓜のことなれ共ハ用ゆへ[illegible]痺のもの
胡瓜とて五味の業別なり[illegible]

○金圓 穀の部

味ハ糖の形ハ[illegible]
の形ハ[illegible]
[illegible]
きものハ[illegible]
[illegible]
金圓ハ[illegible]

金圓ハ[illegible]用ゆ
[illegible]

○稷 本綱

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
稷中と[illegible]
稷ハ[illegible]
稷とハ[illegible]
稷とう[illegible]

○黍（モチキビ）【本綱】甘温無毒久食令人多熱煩

俗にいふもちきびなり白黄黒の数種大小ありといへども性は同じ
まふしてはひ乃肥さるゝや

よりかたくてよし又時珍の曰く三月よ種るものを上時とし五月七月よ種るものを中時下時とす

四月に種て七月に熟し八月より実のる

黍の米の粉を餅とし又ひとつにて酒とし

ふるくよりもちゐて穀のうちにて尊き事とす

されば人はいにしへより祭のものにもちゐ

あり

黍（本條）りうきび

黍ハ久しく食へば筋骨をよわらし血脉を閉て人をして多熱煩せしむ

黍と牛肉白酒と同じく食へば寸白虫を生ずといへり

黍と葵と同食すべからず

黍を鯉の肉と同じく食へば

黍ハ人の腹中に多く熱をしょうじ

○丹黍（アカキビ）【本綱】甘微寒無毒

俗にいふ赤きびなり

穂ひろくして其実赤し又黍とおなじもの也

ならびに粥をつくりて食ふべし

よく泄痢を止め又は霍乱をなほし

○蜀黍（タウキビ）【本綱】甘渋温無毒 温中渋腸胃止霍乱○たうきびといふ

唐黍なり高粱とも蘆粟ともいふ

其穂のかたち箒のことし

其実ハ赤黄黒の数種あり

その莖ハ高さ一丈余り

穀のうちにておほいなるものなり

たうきびハ中に酒の霍乱の薬とす

たうきびの根ハ妊婦の難産によし

たうきびを煎じて飲めバ横痃腫痛をなほす

○金橘（キンカン）【本綱】酸甘温無毒 下気快膈止渇解酲辟臭

一名金柑 夏橘 盧橘

くだものなり

あらかじめ実をとりて塩漬にしてこれを貯へ

金柑の皮をもちゐて酒毒をとき

金のごとく黄なる実なれば金橘といふ又いくらもありて

[illegible]

今稱ハ氣とりつく酒とも膳とも山椒とも

今稱ハ酒とも酒とも食とも癌とも

○鄭書 本綱 耳菌 [illegible] 毒 いてうの毒しは

[illegible]

と雖とも二稜ともと白果とも

鄭書ハ生にて人ハ酒毒を解し食て痔の患

鄭書と熟食すれハ氣とゆて脚とわるて脚氣とも

鄭書ハ[illegible]とも[illegible]

鄭書ハ[illegible]食すれハ[illegible]

鄭書ハ[illegible]

鄭書ハ[illegible]

鄭書ハ[illegible]食すれハ[illegible]

鄭書ハ物[illegible]

鄭書ハ[illegible]食すれハ[illegible]

○木渎 [illegible]

木渎ハ[illegible]辛して毒[illegible]

木渎ハ酒毒と解とも食をハ生にてよりや[illegible]

○狐 本綱 耳菌 酒毒 [illegible]

[illegible]

百害あることなし八わ牛とれして家を従一男女淫
婦にあたへて人をまとひ尾を繋て家をわくより名白
氏文集にも見えたり此のさるの女を見てそ人いまよ
りとこいふまへ言ふ人々より八あなたの人のためによ八
ありなき人のたがひ八あしからずとあくれんさりとを
あくぞ
猳肉 乙十さ瘡の瘡毒をもと治せり痰瘡をもおこる人の病
猳しそ出腸の邪氣乃を繩を蠱毒を治し悪瘡も
猳をハ和氣痛を合年すも又ハ心痛下 搗て用ゆれハよし
猳らく太小人の驚癇や猳つきぬる人へよりよし
猳をハ痘瘡あて瘡毒れ骨のうくふきより下
猳寄生子とふむとやるに志て合して壽動を合り
猳腸牛やくびやれやる時の出る乃し牛肉に同じ
き猳の肉腸及腸肚まで燒一度としてのまさと
き牛まそて熱くるも馬ともは血毒のます
る猳の灰も牛ある乃病まくまる也
鳥之部
○雉 本綱 酸微寒無毒 陰の名を雉の居
の雉と雉く呼ふのまし来とし玉子を繩ようにまぐ
はしたるまのてくたて一さく一ひ甚ぞうろくる取
ち尾を色きて無毒のさまとけるとさんのかるく
とかりてさ雉まとるれ母とし雨稀の類ハ雉ハ文字
あらて尾も雉ハ文とりして尾みじりし首ずつるを
びすむ卵をえて八雌雉とさけ雉もまつる志う世ざる
八雉を卵とるふしとり元のくれ毒合てまきつけらし
てその合わくとん子の志下しまめなる毒ゑて八毒を
あるくかるとなかりとして八かまりの雉るうると以
まそのまくるのあたれなるくるこゆるりや

雉子ハ中を補ひ気力をまし泄痢をとゞめ蚘痔をなす

同 雉子ハ秋の末より冬の中食すべし他月ハ毒

雉の肉久しく食へバ痔瘡疥癬をなし又痢病を発す

同 雉の肉そば同食ハ腹に蟯虫を生じ風をおこし痔病をやむ

同 雉乃肉菌木耳同食ハ痔病を発し下血する

雉乃肉蕎麦と同食ハ蛔虫を生ず八寸白を生ず

雉ハ鳥の中痰気をおこし脾胃の気を補ふ

雉ハあかうに病虫をのこし病のある人ハ食ふべからず

雉の卵産後ハ食ふべし小腹いたむ病をなす

雉ハ鯉魚と同食ハ瘡疥や痢を病む

雉は元来毒とやうゞめゆへ瘡疥出ハふかく
いめえ又悪血とゞまりてこゝろよからず ゆへなき
ことかさをおこし又一たん毒とやぶり痼をわづらふ
やうなるやうにならず
捨あるべしとなり

○ 魚之部

鱠残魚(キスゴ) 本綱 甘平無毒

呉王闔閭江の魚をとりてなますに作りこゝに魚鱠の残を江に捨しに化して魚となりし故に鱠残魚と名づく 異名王餘魚 時珍曰

[illegible]

の毒なり　又ハ義とし　そのこと
なり　なりとすべきなり　黄疸なり
きたなき毒中をゆるし胃をつむ船とかりて合へてきたる
きたなきとして胃と胸へ脾と宮に常に疳のあるに自ゆ
きたなきこと法に拾ひ　胃と毒で　胃と拾ひ
きたなき氣毒を拾ひよりきたり　英きたりと合せよ
きたなきと胃毒や脾　脾つひ疳　やきて食あるなな
きたなきこと水腫の黄疸の黄疸ふうすしすらゆう

ゆ

苦らへ部

○壺盧　本綱　草部　滑毒

俗名　絶瓜　瓠瓜　水の瓶

つきて　ものうりなり　ものの名　法氏　ものの名　人めの
きてしとハ　ものうりなり　ものうりなり　ものの名
らぬのさけつまごにそひ　ひまつのわるとハ　おしの物のらるる
やとかもハ　ハけ　ものの名　ものの名
産ものにうへ　ものの名　ものの名
のそひ　ものの名　ものの名　ものの名
苦らへ　ものの名　ものの名　ものの名
日　苦らへ　ものの名　ものの名　ものの名
日　苦らへ　ものの名　ものの名　ものの名
苦らへ　ものの名　ものの名　ものの名
苦らへ　ものの名　ものの名　ものの名
苦らへ　ものの名　ものの名　ものの名

教之部

湯液　湯液　湯液　湯液　湯液　湯液　湯液　湯液　湯液　湯液

湯づけも腸胃の熱を下し霍乱ならびに毒を消す

果之部

○柚 本綱 酸寒無毒 又名壺柑といへるハその

時珍の説に柚ハ樹葉ともに橘に似て[illegible]くさの壺のごとくなれバなり

日本にて此柚と花柚といふ二色あり 又大小二種あり 花柚ハ其の実の

つくあさりのものを[illegible]実を柚といふて又香もあり山椒と

のんやうのかをりめのやうなる 花柚ハよけく用ひど

享禄 柚ハ酒毒食毒を消して酒をのむ人の口気を治するによし

日用 柚ハ腸胃の悪気をさりて食をすゝめ口の渇をやむ

本草 柚ハ常に用ひて風気をさり食をすゝめ痰をとかせる

本草 柚ハ種の髪ことに柚みそとハ後世はやるものハ無し

柚みそハはやりて山椒を加へ調味すべしハ食品とすべし

柚ハ口の中の臭気を除き胃の気の悪気を消し酒毒を除き

柚の皮ハ香ばしけれバ魚の臭気を消し腥きにほひを去る

○飯 めし 穀之部

ふるきひめしとゆをりめしへといひてまづ湯よ[illegible]

たきたてのめしと[illegible]ゆの事に[illegible]の時ハ

よこも湯をとてせいろうにてむしたるをもいふ[illegible]

くゐくりいましきさかなをたきて[illegible]

きしむしくもてるまの脾胃を消するにやうるよ

おくつまの食と又わてゝめくるは脾胃よわきもの

めしハたく事にたる細に度飯とやつれせよ

○強飯 こハめし ハ多く飽まで食すれバ胃の気を損ずるなり

禽之部

○黄雌雞 かしハ にハトリ 本綱 甘酸平無毒 時珍の説に[illegible]雞ハ其の色[illegible]

の氣味の薬は脾の氣を補ひ胃を和し丹溪の説に
ゐるみな脾胃の病に屬するといふは山雞と
ひとしく穀をもつて養ふにてもつぱらこれを
山の人は日々にて毒性合にせるは黄雌鶏をもつて又腹の鶏
はやはりこれをもつて毒性合にせるゆゑ色ゆゑもつかふ性毒をう
そめるこれを色のもつて黄ものをすこしもつてきんゆうこれを
こと中にもと黄ものをもつてあるゆゑあるいはあるいはあるいはあ
ものの色の黄ものを薬性をうつ花にもまた鶏のあわみをあわび
鶏のところをうつ

漆

黄雌鶏は脾を勝とする人氣のまま精を補陽氣をたすけ
同
黄雌鶏は世間とおてお俗のもつとも吉みを補
同
黄雌鶏は骨を痛し鶏を洗湯を洗ひ傷中を洗
同
黄雌鶏を腹よりわたを補養をとる鶏合をし世俗のいつ
山鶏合山猫のしたをかくし鶏の面をわ黄を

めをいかつくを色藤やうの隆をの物をうつ

臭らく部

○目張　えあらどのあるよりぐろの性わう
めをかを年紙藤のまの脾胃に吉合をもつて氣力を
めをかをを大小のもつ腹小便をやとしやと治を
めをかをを目をかに肝肩の形氣を色を筋力をまん

み

苦らく部

○辣芥子　すふりうの実をまかりをを
をうをを年綱をはをしをををけて結を
をうをを日本はをしをををををうをうを
ををを実のはをもをを実のはををうや
をうをををををを実ををををををををう

苺の実九穀と和し耳や目とわかちて中とあを
苺の実熱歟と氣やうの胃とひらして腸とろか
苺の実とみく食ハ熱とあり目とてを
苺の実こぶ同食ひしめよのらふふるに毒痛とやむ
苺の実鄭と同食ふとの腸の病たるとを
辣苺ハ中とあるを氣と風氣痛痢血とか
辣苺ハ心痛とやはり腹とめ痛ひるを嘔とむ
辣苺と病ふ人ふ洗ひめ用て洗ふとる
辣苺ハ風と鄭て血とやう中風肺氣ふる
辣苺とうひまて食すふ氣人ふ風

辣苺ハ沢氣とよく五臓やあらとふりつる
辣苺ハ骨肝の和氣ふて胃と温食とす
辣苺と出腹痛ふて
辣苺とをとして痢のちふて
○英實 本綱 東平 濃 [illegible]
ひくふふふふ日にひくふ実の苞鄭
ふ刺ひり実ハ八月よ
きて移ふして俗
の沢ふりて作り
英実ハ擂膝ふ
英実ハ胃と家又胃
英実ハ渇とふあ

みやうがと云ハ今世ふ精とされ白血や白やもの名治とて

○蘘荷（ミヤウガ）【本綱】苦（ニガク）辛（アニク）寒（カン）こ毒なし（トヨリ） 識日本しゆ 薑の形に似て肥

てこぶふ八名うてミやうがの古ハ陰のみのる故由の下にゐる

もの也といりとこり付称の経よ古人今経とりて蘘荷

八芭蕉より小くこ花枝の中よ生じ花ハ赤やふきぎろ付

らゝぐし年々さ向ふ咲からくりなし、やうがの子乃

まきより出る日ミやうが八樹淡よ二月小株をけども移す

くしそこぎろもやう申ごとくして蘘りとてゝつけて

をとよし八月のてでめるを苗とふことうりもらやうときこ八月又

九月のてでめ子を僅よ生とこ根よわて菹とし又ハ蜜

にうしても食すらいりり日本ふ八盍蘘荷のつきみ

きうミやうがのかをいてふのかり合すること、やうがのまいるるを

秋とり二度生する

あり

おに

みやうがそだちふは氣を塞（くはう）や邪氣（じやき）やかかや蠱毒（こどく）を去

みやうがと食しもはくは手痛しれ氣もりつ也金瘡（とんさう）をいやし

みやうがうは瘧（ぎやく）を除やうえ八て疾くこれて甚しあり

みやうがと八葉のさきよ八置はじめよ性（せい）ありふ病あらとくど

○蘘荷根（ミヤウガノネ）【本綱】辛（カラク）温（アタタカ）有毒（アリセウドク） 思邈曰無毒 二くの九月小生る

ワ花のましに白きをあらさと二色あり合ぬすよハおのき能

茎より生ふは志ろきも良くこりて世俗よミやうがの子として需

八年経よ花といろあのし経毒しりて人又根花毎大り

合勝のぶらりふはさのを性つかりもあらし云ぶの葉

りらりかりハりとしていて

そ孫

みやうがの根（ね）稲麦（ゐなむぎ）の中の稲（なら）目に出ておよそのたかくこめ

円

みやうがの根生にてもちてけとされ衛目（つきめ）のりさやまにあらは右

感剤同ふさん葉いとげんまやらにありらて人し

円

みやうがの根蠱毒（こどく）や沙虱（さらう）蛇（へび）の毒を掃（そう）や退りかくとう

蠱毒(コドク)といふは法をもつてくるわるものとい
ふ事諸書よりんでいたわざこれをこれにつぐ
ふるくりこれは蠱毒(コドク)よりあくるものいとを
しは四一心腹絞(トナリ ミニフクノ ニボ キリ)てこれ法あつぐくにしく
血腹(ケツ ザウ)ごとくしく治よりもいとり本復(ホンカウ)をはかり
対婦(センフ)史といふ人蠱毒(コドク)よりあくらられて疾(ヤまい)
とえて下四をしふとしもしたん蠱毒(こヤウドク)の系
と病人の席(ムシロ)のうちふとをこに病人(ビヤウニン)たちのうち
大きに笑(ワラ)ふ日もあり蠱毒をしりるの法ふと
ありといつも者もしば法ふこをてあげてつと

にくりこれより蠱毒(コドク)とあすくとり小蠱(こドク)のとれ
ワラ人用ひく性(ワラ)にもつてまつりもつてつもを
中国(ちウこく)は蠱毒(コドク)よりあるものもをりつ作り
毒をもつくるものとふよりの足いまるもを
しとふ病人(びヤウにん)のはやうと席のしたふとを
ちうしへきやとうと中国のまふは大祇(イヌガミ)
などいつるものもつこと祇もはやうの
ものこと病人は巫(ワウナ)よりともと仏祇(ブツギ)は巫よを
それ人は人仁(ジン)あるとうとしるの用俗(フウゾク)く
をいつて女の者とあく仁義(ジンギ)の道(メウトリ)のことと耳ふ

まも我云てもどふぞと一杯あらんものとつてごあらんなるら
色し犬神（イヌカミ）といふハ此しお旅ぬらしらへし邪悪（ジヤアク）
の神と此犬神をとりて本ふ末孫（バツソン）よつてきつちてを
人くまじなりて今ハこ増りふ事あるもハらぬ何り
こもうしミあらん今ゟてつとをんし、とまをとらうら
さむらくとせし犬神（イヌカミ）持主（モチヌシ）に詫言（ワビコト）をせし又へや
く様が持（ムカヾ）ても邪気（じやき）ありぞくとなりもハ
田舎（井ナカ）遠国（オンゴク）までも儒仏（ジユブツ）の理をしらぬて此犬
神とおもふ人もとそきまくぶえかけりんぞ是非（ぜひ）
り捨んとおもへハ此ぬしよゐをしとゞはとやへつま

誠なるかな一会の悪業（アクゴフ）尽未来（ジンミライ）をかけて色戯
しりごしとみをとむるいましめにて候しを
とそ得へし

○海松（ミル）　本綱に石花菜（セキクハサイ）とあるを取りしと代和訓（キンタイワクン）をもり
こ是ハ菜（サイ）の部にして又古来（コライ）海松（カロウ）の二字をカタ
と和名鈔（ワミヤウ）これハ本絵なる紅松と云ものを水
松ハうとまつと和刊をりの書の証よハがてら書のてるよ
してミれと宗（トウ）てそゝへし海の中にふせなぞとあり
まさに石花菜の証（コウ）ハ南海沙石の石にふせなぞとある二字
くちきんどの如く紅白の二色あり枝よこ有て当
沸湯（ニコユ）とまく泡しするを取りて去やなぞとまりて
へでこまかふくてよりしを和とするよ理ゆいてなびかふとを
をとしその水くらハかるとてもすまゆら大くみのやうよ自ひ
あらゆそり無別なるのあうたは旅くを以わとるものくよらうの
よるへよさるはらるべしされ大様なるのよりのことまろまで
としそもかのもとこ中よるの松ハ海の底ふをじ石花菜に
るや砂の石にちらと初りも終義ハ古来の本草方くわふと

酒和とハ法霍乱や腹の痛むやうなん
酒和にて腹痛をしたるを酒和にて
酒和とハ酒毒と解し胃と穿と合とすべし
酒松と乾飯同合にて
○石菖菜 本綱 耳鹹大寒滑毒
石菖菜上焦の浮邪
解の結毒ハ用ること
○水松 本綱 耳鹹寒毒
水松は深毒の腹痛をとりのとして伊

これを解の結毒ハ用ること
○穀 穀部
○味噌 本綱の醬の味噌をみそとよぶ和名抄に
日用の味噌とハ醬と
なのみそとよぶ
みそハ濁耳毒
○糝 味噌汁の

機はわまたちゆく毒りをえい激酒し胃の腑おざのよ
機は腑胃の機をし世泻まを酒毒と強し氣を動をう

○寄滋討　討いつくしいつくふ酒のくりこりうんちうに二度
こつとんちうすりうう痰出機發ときく用ひる痛と治と
ちうちんちうすりわいく多すよりしてのをむしをやをふ
ちうちんちうえりやえ腸寄の胃の腑とひくをを食をむう

○橘　木綿　果ちく緋

其強酒を毒　酒あまさと二ちをを
又強をを毒　酒の樹ちりに橘のちう
ちう世僑ち僑の樹ちりに橘のちう
樹ちげりとを実なりとりて綿酒よ僑僑ちんのりよ
移ちどをとちうひとをさは実をひをを有威寄
いつく橘は腑とりて実ちけ酒緋ちを橘の龍ちえてをを酒実乃

手紙

みんくく其さは腑と同ちり強ちをて痛とちうひ酒を
日
みんくを消渇ちの胃とひく腔中の腸ちりをてをれ
みんとは合ひををちりて腸ちをを也寄へをるか
みんとは酒ちうは機ちげりくへちりをを酒と
まちやきは喉痺やのぐよ胃ちてををひをを中にちる
ちうく緋

○鶏　木綿　其年毒　天名寄　討鶏の日鶏
大鶏の少の骨の骨刻千里ちりふくく

[illegible]

○鼠　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○木兎　[illegible]

[illegible]

臭之部

○水鯉

みどめ　[illegible]

みどめとい　乳汁出ざるに食すれば乳汁出る

みどめくいかの　[illegible]

みどめて　胎と安し　血とかつ　[illegible]

草之部

○紫蘇　本綱　草葉辛温無毒　[illegible]

[illegible]

[illegible]

落乳ゆく浸して脾胃を極さるとかつてこの病脾乳虚若
落乳産婦の血乳同のまゝや脳ゆきりてたるのみなら
ず乳石淋とうくもを発癰腫とはし乳力をそまん

○白蒹

白蒹平 毒なかくもちる腎書對乳毒[illegible]貝を取
白蒹毒を除の薬まりたる水をあらはのまり若

○大棗之煎汁

蒹葡の汁草くゝ温用[illegible]
ちりの汁脾を潤ゝ

○椎茸

この茸の新
椎茸ハ温て生の毒ハ少なり食て乳とうくこと

○熊胆

本綱 [illegible]
[illegible]
[illegible]
熊胆ハ陽胃を利して渇を止る
熊胆ハ酒毒を解[illegible]
熊胆ハ[illegible]

[illegible]

燒酒

本綱 李時珍曰 燒酒大熱有毒 [illegible]

[illegible]

燒酒 [illegible]

燒酒 [illegible]

燒酒 [

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白豆腐 腸胃を調へ氣を下し腎の病を治す

○白油麻 本綱 其味甘平無毒 油麻は性潤にして能く風を除く

白胡麻 性潤にして能く風を除く 白胡麻は性潤にして能く風を除く

白胡麻油 能く風を除く

黑胡麻 肝胃の毒を拔く

○茱萸 本綱 其味辛苦酸温濇平無毒 性安石榴に云

越は俗に[illegible]

又齊民要術に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○酸石榴 本綱 酸漿 毒

酸石榴は味甘酸利にして[illegible]腸や腹の痛[illegible]

酸石榴は甘くして[illegible]痛として中焦を[illegible]人に用ゐる

酸石榴の皮は腹脹を四[illegible]と言て痢病に[illegible]の[illegible]

酸は收斂して乳と[illegible]物とを[illegible]

[illegible]

石榴と[illegible]は[illegible]漏の如く[illegible]

石榴を[illegible]腸[illegible]

石榴[illegible]二[illegible]漏[illegible]日の漏[illegible]

[illegible]

○柹柿 本綱 柹毒 [illegible]

[illegible]柹は[illegible]漏毒

[illegible]柹は[illegible]胃[illegible]

[illegible]柹は[illegible]漏[illegible]

[illegible]柹[illegible]

○椎

椎は[illegible]のやまひ[illegible]痢[illegible]の[illegible]

椎の[illegible]は[illegible]人[illegible]胃[illegible]

椎[illegible]

鳥之部

○罕薩

罕薩年ゝ事く氣力まさりて是と治を
罕薩の薬ハ薬ゝ氣のぬきわはをとせまする

○白鷺　又さぎ　うんのあよ治を

白鷺ハ湯也腹肝を治をゝ前やまあよをと用る
白鷺ハ脾胃をよめ氣力ぬけ生のち治てこのもれ
白鷺と串指ゝ合たるゝ福のせをとる治を

○白鳩　色ハ常よりひ常ゝとのゝ也
てりてとのゝ有ゝ治を

白鳩ハ年ゝ毒ゝ久病のゝ有ゝ人ゝ

白鷺ハ白癩風のゝ有ゝ

白鳩ハ氣力ゝ多ゝ食事ゝ精けを益陰病を治を

○鴉　年綱よりあ年ゝ　ぐゝ雑藥と治をゝ

鴉ハ年ゝ事あゝ多ゝ

鴉ハ年ゝ毒ゝ骨ゝ病ゝ有ゝ百毒を治を
鴉ハ世間ゝ白癩ゝ多ゝ也ゝ腸ゝ有ゝ人ゝ難治ゝ

鴉ハ骨ゝ骨ゝ益精けの足ゝ有ゝよつゝ
鴉ハ骨ゝ骨ゝ益精けの足ゝ有ゝよつゝ

○白鳥雛　年ゝ保白雛ゝ　ぐゝ有ゝと同ゝ　あゝ有ゝ雛の新ハ人ゝ
あゝのめゝのゝ有ゝ

白雛鶴鷺濁ゝ事ゝ濁ゝやめゝ元練ハ濁ゝ治を

白蛇乳汁産婦に乳汁めぐらんあるいは乳腫

○白鷺　白きさぎハ世人及りん路のまようことあるハ

白鷺ハ温なり脾胃虚寒ものハ毒出脾寒ものハ

白鷺ハ風邪ものハ身のうちをはりあぐべきものハ

白鷺と蝦蟇あハ食すべからず孫思邈ものハ

魚之部

○白魚　本編の白魚ハ白魚ハ本編の白魚ハ

すべて脾の弱の毒の毒ハ

の薬名のうちに白魚ハ

本編の白魚ハ

○鮒　白魚ハ温性の毒

白魚ハ多く食すべからず

白魚ハ脾胃虚寒ものハ

○鮒

ちぶ温性の毒を服すべ

ちぶハ百病よりいまだ

○鯽魚

ちぶ温性の毒

ちぶ多く食すべ

○鯛漬

[illegible]ハ心[illegible]ハ[illegible]ハ腔[illegible]ハ[illegible]

生ノ部

○覬 本綱 [illegible]冷[illegible]毒 異名 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

堀そ公爺ちれ四や きう 癖の ひ ま と と 上 ひ 四 さ ち 生 ひ ま

堀は 鉛 毒 に あ り 水 と そ 給 ひ 間 と ち て 生 て 赤 細 字 ゆ

堀は こ こ 一 切 肉 乳 の 風 難 や 産 所 毒 ち こ は ま ち と れ

堀 ち そ 公 爺 ち と て 公 四 ち を 四 ち 作 し 膝 ち も 備 り 右 り 小 こ う 乳 ち

堀 癖 ち 四 ち は 四 ち ね ち 付 そ や む 法 癖 ち よ ち り て 高 粉 こ う

堀 き こ に 目 ち く 膝 て 涙 お う ど き ひ こ ま の ば 湯 ち よ ち り く ち ま と

堀 水 腫 淋 病 ち ち む 四 ち よ ち ち て 渇 と 黄 ち 病 ち と そ ま れ

金物和訓本草 堀補之法